誰もが住み慣れた「家」「地域」で、暮らせるように私たちが応援します

福祉介護課だより

JAあきた白神特定施設サービス付き高齢者向け住宅「白神憩の郷」

入居者が〝コロナ〟終息を願い千羽鶴を一羽一羽折る

「白神憩の郷」の入居者有志14人が新型コロナウイルスの早期終息を願って一羽一羽思いを込めて折り上げた「千羽鶴」を金田施設長（福祉介護課長）と介護スタッフ、また、同敷地内に店舗を構える、JAのしろ北支店山谷支店長に手渡され、それぞれの施設内に展示されました。

有志14人の中から代表者が施設長と介護スタッフに完成した折り鶴を手渡す。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、「白神憩の郷」では、2020年から、入居者が一番楽しみにしている外出やお買い物を伴うレクリエーション、また、自宅への一時帰宅や、ご家族との面会制限など自粛した生活が、未だ先行きが見通せない中続いていることから、入居者さんが新型コロナウイルスの早期終息を願い思いを込めて折った千羽鶴。

千羽鶴を折り上げた有志の中心となった、榎　初枝さん（83）は「施設内での余暇時間に仲間と童謡を唄ったり、折り紙を折って過ごしており、その中の会話で「家に一時帰宅したい。」「家族と面会したい。」などといった会話が中心となってしまう事から、願いを込めてみんなで千羽鶴を折ることを決めました。有志14人が力を合わせて約2週間で折り上げることが出来て、この想いを形に現したかった。」と千羽鶴完成までの経緯を話してくれました。

金田福祉介護課長は「窮屈な自粛生活が続いて、入居者やその家族も寂しく辛い思いをしていると思う。仲間と思いを込めて折り上げた鶴が、きっと願いを届けてくれると信じたい。」と目頭を熱くしながら話し、山谷のしろ北支店長も「頂いた大切な思いの詰まった折り鶴を支店内にも展示させてもらい、来店者や地域住民に向けて今一度、新型コロナウイルス感染拡大予防対策の徹底の呼びかけなど、支店として出来ることをお手伝いしていきたい。」と話してくれました。

頂いた千羽鶴は一番目立つ場所に展示して
新型コロナの一日も早い終息を祈願

のしろ北支店長に気持ちを込めた千羽鶴を寄贈する榎初枝さん

祝 福祉介護課敬老会 祝

「いなほの里」「白神憩の郷」の両施設では敬老会に合わせて、それぞれの介護スタッフが夜な夜な練習した「ヨサコイ音頭」や「長生き音頭」などを披露しました。

スタッフが「いつまでも元気に長生きしてね～」と声をかけると「ありがとう」と涙ながらに喜ぶ利用者さんや、お礼に一曲披露してくれる利用者さんもおりました。

福祉介護課ではこれからも、利用者さん、入居者さんに笑顔と元気をあたえるサービスを提供していきます！

米寿・卒寿のちゃんちゃんこを着てお祝い

「厚化粧だから誰だか分からねな～」と利用者さん

お殿様が表敬訪問!?

感謝の一曲を披露するいなほの里利用者さん

金田施設長もキレッキレッ?のヨサコイを披露

キレッキレッのヨサコイを披露する白神憩の郷スタッフ

「敬老会」豆知識

敬老の日は、昭和22（1947）年9月15日に、兵庫県の野間谷（のまだに）村（現：多可町（たかちょう））八千代区）で、「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」と、敬老会を開いたのが始まり。

なぜ9月15日が選ばれたかというと、村の閑散期であるとともに、気候もよいという理由からだそうです。

この敬老会は当初、「としよりの日」と呼ばれ、全国に波及。ただ、「としより」という言葉の聞こえがあまりよろしくないという理由から、のちに「老人の日」と呼ばれるようになりました。

現在の名称である敬老の日として国民の祝日に定められたのは、昭和41年のこと。以降、9月15日を祝日としていましたが、平成13年に「国民の祝日に関する法律」が改正されたことにより、敬老の日は移動することになり、平成15年からは9月第3月曜日が祝日、「敬老の日」となりました。

いなほの里スタッフによる
「長生き音頭2021」は
下記QRコードでご視聴頂けるほか、
当組合ホームページでもご視聴頂けます。
元気のないこのご時世。あなたも元気貰えます!

ディサービスセンターいなほの里
看護師・介護員・運転手　スタッフ募集中!!

もしも、あなたが、
相手の話しを聴くことが好きだったら…
相手に、ニッコリ微笑むことができる人だったら…
私たちと一緒に働きませんか？
きっと、あなたは充実した人生の応援団になります。

興味のある方はご遠慮なくお問い合わせください。
ＪＡあきた白神 福祉介護課 いなほの里施設長 船越 志保子　TEL:0185－58－5811